

一般社団法人日本家族看護学会  
2025年度 第1回定時社員総会 議事録

日時:2025年6月8日(日)11:00-12:00

場所:Zoomによる開催

参加者(敬称略・順不同):

理事/社員:荒木 暁子、今野 美紀、相墨 生恵、小林 京子、佐藤 伊織、井上 玲子、荒木田 美香子、鈴木 和子、涌水 理恵、深堀 浩樹、藤井 淳子、松坂 由香里、浅野 みどり、山本 真実、門間 晶子、杉浦 太一、影山 葉子、山崎 あけみ、本田 順子、河原 宣子、奈良間 美保、野嶋 佐由美、長戸 和子、中野 綾美、瓜生 浩子、伊東 美佐江、梶谷 みゆき、野間口 千香穂

監事:石垣 和子、泊 祐子

学術集会長:今野 美紀(第32回)

幹事:高山 充、河村 江里子

事務局:川出 汐織

### I. 開会の辞

- ・荒木理事長より、開会の挨拶があった。
- ・浅野理事より社員48名のうち、社員総会開催までに委任状の提出者15名、議決権行使者1名の連絡を受けており、社員総会開始時における社員の出席者は30名となり、全社員の過半数を満たしており、定款22条に基づき、定時社員総会は成立した旨が説明された。
- ・定款20条に従い議長は荒木理事長が務めることが説明された。

### II. 議事録署名人選出

- ・理事定款第23条により、社員総会の議事録には議長と社員総会において選任された議事録署名人が記名押印または署名することと定められている。自薦・他薦はなかったため、議長より、影山 葉子氏と杉浦 太一氏の推薦があり、議事録署名人を務めることとなった。

### III. 決議事項

- ・荒木理事長より、決議は、Zoomの投票機能を用いること、1号議案から2号議案までであるが、投票数の集計を円滑におこなうため、1議案ごとに決議を行うことの説明があった。

#### 1号議案 2024年度決算報告および監査報告(資料1)

山本真実理事より、2024年度の決算報告がされた。その後、石垣監事より監査報告がされた。

- ・投票(Zoom)の結果、「1号議案 2024年度決算報告および監査報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成46票、反対0票となり、過半数の賛成が得られたため承認された。

#### 2号議案 2024年度活動報告および事業報告(資料2)

河原理事より各委員会の活動報告があった。

・編集委員会:委員会のWEB開催、機関誌(第30巻)発刊、学術集会での委員会企画、学会誌に対する問い合わせ対応、学会誌編集上の課題の検討を行ったことが報告された。

・研究促進委員会:第13回家族看護学研究セミナー、第10回日本家族看護学会研究奨励賞受賞論文の選考・表彰、Journal of Family Nursing(JFN)とのアブストラクト交換のための選考を行ったことが報告された。

・実践促進委員会:家族支援CNSネットワークによる場面別家族看護研修の開催検討、第31回学術集会での家族支援専門看護師による「よろず相談」の開催、家族看護グッドプラクティスアワード2024を実施したことが報告された。

・教育促進委員会:家族看護の教育ツール【現任教育版】の活用促進・洗練化に関する活動、家族看護教育セミナーの開催、第31回学術集会委員会企画の開催、家族看護の教育ツール【基礎教育版】の開発に関する活動を行ったことが報告された。

・国際交流委員会:諸外国の家族看護学学会・研究機関との交流・ネットワークを構築、会員向けの国際交流活動支援・情報提供、第17回International Family Nursing Conference(IFNC)の情報提供および日本家族看護学会(JARFN)企画の検討、国際交流委員会セミナーの開催、International Family Nursing Association(IFNA)と協力し第31回学術集会での展示実施、ニュースレターの発行、JARFNメールマガジンでの報告、Small Group活動支援(第3期グループ)、JARFNの英語版ウェブサイトの更新を行ったことが報告された。

・広報委員会:随時HPの更新、メールマガジンの発行、ウェブニュース第20号の発行を行ったことが報告された。

・社会活動・政策委員会:看護系学会等社会保険連合の開催する会議体への参加、「家族支援専門看護師の活動に関する実態調査(第1報)ーWeb調査報告ー」の公表、第31回学術集会で診療報酬上の加算要件への参画に向けた委員会合同企画、令和8年度診療報酬改定に向けた要望書の提出、社会活動・政策に関する活動の協議を行ったことが報告された。

・災害対策委員会:ホームページ掲載に係る検討・実施(国内外で発生している災害や紛争等に伴う理事長からのメッセージおよびこれまでの刊行物やセミナー等での取り組みについて)、第31回学術集会との共同企画シンポジウムを行ったことが報告された。

・将来構想委員会:CNS・NP養成の教育カリキュラムに関する全国調査、評議員による活動助成事業の支援を行ったことが報告された。

・総務委員会:学会事業の推進に関わる諸活動、委員会活動の補佐、第32回学術集会における日本乳幼児医学・心理学会との共催シンポジウムの調整、JANA主催シンポジウムへの協力、社員総会・会員集会・理事会等の会議体の運営および統制、総務委員会の開催、定款・内規・細則等の規定の整備・管理、学会事務局との連携を行ったことが報告された。

・Covid-19調査研究プロジェクト:アンケート調査(量的調査)、質的調査①の実施およびホームページへの結果掲載、質的調査②の実施および分析を行ったことが報告された。

・利益相反管理委員会:本学会および会員の活動に関わる利益相反の適切な管理のため、制定した指針および細則に沿った運営を実施したことが報告された。

・投票(Zoom)の結果、「2号議案 2024年度委員会事業報告」については、事前の委任状と議決権行使を含

め、賛成 45 票、反対 0 票となり、過半数の賛成が得られたため承認された。

#### IV. 報告事項

##### 1. 委員会報告 2025 年度活動計画

・山崎理事(編集委員会)より、委員会の開催、学会誌第 31 巻の刊行、学会誌に関する問い合わせ対応、学術集会でのセッション開催、学会誌編集上の課題の検討が予定されていることが説明された。

・上別府理事(研究促進委員会)に代わり浅野理事より、家族看護学研究セミナーの開催、実践促進委員会との共同による研究-実践-教育促進の検討、第 11 回日本家族看護学会研究奨励賞受賞論文の選考と表彰、JFN とのアブストラクト交換を予定していることが説明された。

・藤井理事(実践促進委員会)より、第 32 回学術集会にて 3 場面別家族看護ケアガイドの報告会の開催、第 32 回学術集会にて災害対策委員会・研究促進委員会との合同企画の実施、家族支援専門看護師による「よろず相談」の開催、家族看護グッドプラクティスアワード 2025 の実施を予定していることが説明された。

・長戸理事(教育促進委員会)より、家族看護の教育ツール【現任教育版】の改訂およびホームページでの公開、家族看護の教育ツール【基礎教育版】の作成、家族看護教育セミナー開催、第 32 回学術集会での委員会企画の開催を予定していることが説明された。

・本田理事(国際交流委員会)より、諸外国の家族看護学学会・研究機関との交流・ネットワーク構築、IFNC17 での JARFN の広報と特別企画の実施、会員向けの国際交流活動支援・情報提供、国際交流委員会セミナーの開催、メールマガジン・ニュースレターの発行、JARFN の英語版ウェブサイトの更新、JFN とのアブストラクト交換、国際学会助成についての検討を予定していることが説明された。

・荒木田理事(広報委員会)より、ホームページを通じた情報発信、年 6 回のメールマガジン、ニュースレターの発行、会員獲得に向けた他学会等での広報検討を予定していることが説明された。

・深堀理事(社会活動・政策委員会)より、看護系学会等社会保険連合における活動、家族看護学に関わる社会活動・政策に関わる情報の収集および発信、家族看護学に関わる社会活動・政策に関わる活動を予定していることが説明された。

・河原理事(災害対策委員会)より、国内外で発生している災害や紛争等に伴う理事長からのメッセージおよびこれまでの刊行物やセミナー等での取り組みのホームページ掲載検討・実施、学術集会等にて実践促進委員会との合同企画の実施を予定していることが説明された。

・山本則子理事(将来構想委員会)に代わり浅野理事より、CNS・NP 養成の教育カリキュラムに関する全国調査の実施、評議員による活動助成事業の支援を予定していることが説明された。

・荒木理事長(Covid19 プロジェクト)より、量的研究4回目となる Web アンケート調査の実施およびこれまでの調査結果の集計・公表、第 5 回目の量的研究調査の実施(12 月ごろ)、質的研究1の結果分析・公表を予定していることが説明された。

・浅野理事(総務委員会)より、学会事業の推進に関わる諸活動・委員会活動の補佐(重点目標5. 医療・福祉・教育領域の多職種と家族看護の概念を共有)、社員総会・会員集会・理事会等の会議体の運営・統制、選挙管理委員会との連携・調整、定款・内規・細則等・規定の整備・管理、学会事務局との連携(予算、会員管理、選挙管理委員会との連絡調整等)を予定していることが説明された。

・浅野理事(利益相反委員会)より、本学会の会員・役員・各種委員・学術集会長等の適切な利益相反管理、役員・各種委員等の COI 申請書の集約、利益相反審査依頼への対応を予定していることが説明された。

・浅野理事より、選挙管理委員会について、理事 2 名とその他一般の会員を加えて選挙管理委員会を発足する旨が説明された。選挙管理委員会の理事については、令和 7 年第 2 回理事会にて、本田順子理事、長戸和子理事が推薦されたことが説明された。選挙管理委員会では、役員選挙スケジュールの検討および告示、被選挙人への選挙案内(メール)、役員選挙の実施・開票・選出を予定していることが説明された。

## 2. 総務報告

### 2-1)2025 年予算

・山本真実理事(会計担当理事)より、資料 7 に基づき、2025 年度予算案について説明があった。

### 2-2)会員・会費納入状況

・浅野理事より、資料 5 に基づいて 2025 年 3 月 31 日現在の会員数は 1380 名、そのうち 244 名より 2025 年度の会費支払いがあったと報告された。会員管理について、ワーキングなどの発足も視野に対策を進めていくことが説明された。

・井上評議員より、会員減少について家族看護という学問の衰退という事ではないと認識していると発言があり、会員増加の手段として学術集会で入会受付のブースを設けることも有効ではないかという意見があがった。

・浅野理事より、看護系の学会でも会員減少が課題となっているため家族看護学会での対策について検討していきたいという発言があった。

### 2-3)理事会報告

・浅野理事より、資料 6 に基づいて 2024 年度は 6 回の定期理事会、第 31 回学術集会にて会員集会を開催したことが報告された。

## 3. 第32、33 回学術集会の進捗

### 1)第 32 回学術集会報告(資料 7)

・今野理事より、資料 7 に基づいて、演題の受け付けが完了し一般演題 106 題が集まったことが報告された。

### 2)第 33 回学術集会報告

・瓜生理事より、第 33 回学術集会についての報告が行われた。

・会期は 2026 年 8 月 29 日、30 日を予定しており、場所は「高知市文化プラザ かるぼーと」で行う予定であることが報告された。

・学術集会のテーマは「コンフリクトから調和を生み出す家族との伴走」であることが報告された。

## 4. 第34 回学術集会長の選任

・荒木理事長より、第 34 回の学術集会長については現在までに検討・決定をしていない旨が報告された。その理由として、IFNC18 を日本に誘致する方向で考えており、合同開催を考えているためであると説明があった。

## V. 閉会の辞

・荒木理事長より閉会の挨拶があった。以上をもって定時総会の議案審議が終了したことが宣言され、閉会した。

2025年6月8日

議長

荒木 暁子

議事録署名人

影山 葉子

議事録署名人

杉浦 太一

